



第24号 2018.7.31 発行
 発行者：株式会社協進印刷
 編集者：JO 編集委員会

石井造園がここにあることの 価値をもっと高めていきたい

石井造園株式会社 代表取締役 石井直樹さん



公共工事・公共施設管理業務・集合住宅の植栽管理・個人邸の造園工事などを手がける横浜市栄区にある石井造園株式会社の2代目社長。横浜青年会議所現役時代から明るく豊かなまろづくりに取り組む、横浜型地域貢献企業認定、日本で2番目のBCO（ボランティア）認証、2017カーボンオフセット大賞優秀賞受賞など、認定・受賞歴多数。全印工連CSR認定委員も務める。石井造園株式会社 <http://www.ishii-zouen.co.jp/>

江森：直樹さんは、横浜型地域貢献企業認定制度（以下横浜の認定制度）立ち上げの頃から、まさに一緒に育ててきた仲間なわけですが、認定以前にすでにISO 9001に取り組んでおられたとはいえ、CSRをマネジメントシステムで回していくという認定制度の設計思想は初めからピシとくるものがありましたか。

石井：ISOをやっている一番おもしろいのはマネジメントレビューなんです。社員たちの品質向上に対する取り組みについて、客観的な資料と内部監査の結果をもとに、社長として次の手をどう打っていくかを判断するところがとてもエキサイティングです。だからCSRのマネジメントシステムもまったく違和感はありませんでしたね。

江森：でも、そこがなかなか理解できていない人が多いですね。ISOはやるけど、

CSRをマネジメントシステムで回すというところに真剣に取り組む会社が少ないのはどうしてだと思いますか。

石井：それはCSR、特に地域貢献がボランティアの域を出ていないからでしょう。例えば工場では5S運動というのをやるでしょう。あれは掃除をしたり整理整頓をしたりすることが、作業効率のアップにつながり、ひいては経営にも良い効果をもたらすことが想像できるからすんなり受け入れることができますよね。それがCSRになったときに、経営につながってくる、利益につながってくるという理解がなされないというところでしょう。

よく「CSRは儲かります」という講演をさせていただけますが、それは何も直接的に売上が上がったたり、利益が上がったりするのを狙っているということではないんです。CSRの取り組みを見える化するこ

とで、自分が世間から「見られている」と感じ、自ら襟を正すことで企業価値が少しずつ上がっていく。それを積み重ねていくことによって、「儲ける」のではなく、結果として「儲かっている」ということなんです。

江森：横浜の認定制度をベースにして、全印工連CSR認定制度を作り、こちらでも直樹さんには認定委員としてご協力いただいています。印刷業は今とても変化率の大きな業界だけに、全国の同業の皆さんにはCSRの本質に気づいていただきたいと思っておりますが、なかなかうまくいきませんね。

石井：それには現在トースターやスリッパを取得しているCSR先進企業が、しっかりと事実に基づいて社会にお示しするということが大事になるでしょうね。CSRに取り組んでいる企業が、社員が生き生きと働き、行政や地域社会からも評価され、

決算上の業績も良いということを証明する使命が、上位の認定企業にはあると思いますね。

江森：そういう会社がたくさん出てくると経営者の意識も変わっていくでしょうね。話は変わりますが、最近の取り組みでこれぞザ・CSRだ！というのがありますか。

石井：賞をもらったということでは、はまっ子未来カンパニープロジェクトかなあ。このプロジェクト自体は横浜市教育委員会のキャリア教育事業ですが、我々は地域の先生として、本物のプロの技を伝えることができるという考えのもと、各小学校で小学生と一緒にビオトープを作ったり、学校全体を使った壮大なビタゴラスイッチを作ったりという活動をしました。その活動が評価されて、文科省の「平成29年度青少年の体験活動推進企業表彰」をいただきました。

江森…その活動によって、どのような効果がありましたか。

石井…まずは、子供たちに「造園業」という仕事を知ってもらえたこと、そして地域の方たちに石井造園の存在を知ってもらえたことです。認知度が上がればゆくゆくは受注につながってくるということはすでに実証されています。また文科省の表彰など後から権威付けしてもらえることで、じわじわと評判が良くなっていくという効果はあると思います。

江森…取り組みに対する評価は、どのように実施していますか。

石井…子供たちにはアンケートをとっています。とはいえ、ほとんど全員が「楽しかった」と答えるので、「楽しかった」を基準点として、自由回答欄のコメントからそれ以上の点数を自分たちで判定してつけています。その上で目指すのは85点以上として、毎回改善をしながらより良い取り組みにしていくように努力しています。また、間接的ステークホルダーに対しては、表彰やメディア掲載などで測っています。数値化はまだできていませんが、表彰されたりメディアに載ったりしたら、間接的ステークホルダーにもメリットがあったとみなしています。

江森…経営への効果という面ではどうですか。

石井…社員の意識や人間力の向上ということがあげられると思いますが、本人にこの事業をやってどうだったか直接聞いたり、上司に仕事ぶりが変わったかどうかを尋ねたりして測定しています。

また、もうちょっとリアルな仕事も含めた評価という意味では、お客様からいただ

いた顧客満足度のアンケートをホームページで公表しています。公表することで担当者としては一生懸命やらざるを得ませんし、作業開始時刻や服装などについての質問を入れることで、労務管理や安全衛生管理にも繋がっていきます。

江森…横浜の認定制度についてどのように感じていますか。

石井…現在認定数が459社を数えるまでになって、一定の市民権を得たと思いますし、名刺交換をした方が偶然認定企業だったということも増えてきました。私は企業経営という手法を使って社会を変えていくということは十分できると考えています。そういう意味では企業の力をもって社会の諸問題を解決していくという企業が増えたと増えていくといいと思いますし、もったがなばつてやろうよと呼びかけたいですね。

江森…社会を変えていくときに政治というのは確かに有効な手段だとは思いますが、あくまでも主体は私たちだと思つたのです。それは市民であり、企業であり、NPOであるわけですが、その人たちが社会という物語の主人公なのです。政治は頼るものではなく、使うものだと思いますね。

とはいえ、政策には確かに影響力があり、その典型的な例が横浜の認定制度における公共工事の[※]インセンティブ発注だと思いますが、まさに公共工事の当事者としてどのように見えていますか。

石井…認定企業の中には公共工事において倫理から外れるような工事をしたことによって、指名停止になった企業がいくつもあります。地域貢献企業の認定が取り消しになったという話は聞きません。インセンティブを与える以上はしかるべき処分が



あつて当然だと思えますけどね。

江森…指名停止レベルでは認定取り消しはありませんが、過去に助成金の不正受給で取り消しになった例はありましたね。

石井…それは当然だと思えますね。またいわゆる「インセンティブ狙い」で認定をとる企業の中にはありますが、最近では社員さんの中にもたいへん意識が高く、CSRについても勉強されている方もたくさんいますので、インセンティブ狙いで認定をとつたというような発言をすることは、経営者としてとても恥ずかしいことだと認識してもらいたいですね。その程度ならインセンティブなんてやめちゃえばいいんじゃないの？

江森…(笑)。確かに本来の目的から外れている部分もありませんのでしょけれど、今後インセンティブ発注が行政の[※]SR調達に発展していくと考えれば、あながち悪いことばかりではないと私は思いますね。それ

には例えば、工事のあとに発注者だけでなく、一般市民など第三者による検証のプロセスを入れるとか、インセンティブ発注の有効性を担保するために現行制度で足りないところを補完していく必要があると思っています。

全印工連でも、昨年度には全印工連CSR認定制度の完成形ともいえるスリースターができ、すでに4社が認定されています。全印工連CSR認定制度についてはどのように感じていますか。

石井…スリースター第一号のアインズさんはすごいね。こんな会社あるんだって、身がよじれる思いがしたよ(笑)。いい加減な経営をしていたら社会から追われてしまふんだという危機感を業界全体で共有してお互いにチェックしあう仕組みがあるというのは、素晴らしいことだと思います。

ところで、スリースターで要求しているCSRの「経営上の効果」というのは、本当に測る必要があるの？CSRは結果として「儲かります」であって、「儲ける」ための手段として成立してはいけないものでしょう。それを作動的にCSVとして社会的価値を創ることを意図したものにしているのかなという疑問があるんですよ。

江森…全印工連の認定制度の場合は、だからワンスターからスリースターまで3段階あるということだと思います。スリースターまで来た企業であれば、CSRの本質は理解できていることが前提ということですね。むしろ経営への効果を度外視して活動してしまうことが往々にしてあるので、経営上の効果もきちんと測ってくださいねという意味があるように思います。もちろん経営上の効果というのは、金銭的な儲けだけで



3Rはご存知ですか？そう、リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle）です！身の回りには不要だけどそのまま捨てるのはもったいない、何かの代用にはならないかな？を元パタンナーMと元アパレル販売員Mの「WM（ダブルエム）」で、ちょっと役に立つ（…かもしれない）ものをご紹介しますという企画です。時にはまったく役に立たないものもあるかもしれませんが、そこはご愛嬌！ということで、どうぞ温かい目でお付き合いください。

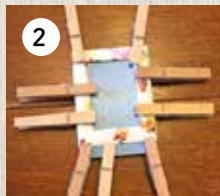
お手軽パステース

さて、待ってました第3回。実は3回目にしてネタ切れになりつつあるのですが（汗）、今回はなんと針と糸は使いません！古くなった生地と厚紙があれば大丈夫！さっそくご紹介～。

材料：要らなくなった服や巾着など（伸縮性のないものが良いです）布、キルト芯（綿）、厚紙、ボンド、綿、台紙2枚（手芸用品店で売っています）。お好みでタッセル（100円ショップ、ハトメは手芸用品店で売っています。）。



1. 厚紙を10cm×7cmに切る
2. 1.の窓枠4cm×6cmを切り抜く
3. 台紙にキルト芯を乗せ、キルト芯を乗せた方を布にあてる
4. キルト芯を乗せていない側にボンドをぬり（図1）、口に布を巻き付けてから台紙も一緒に巻き付ける
5. 4ともう一枚の台紙にしっかりボンドを付けて貼り合わせたら、洗濯ばさみで止めて乾燥させる（図2）
6. 乾いたら完成！お好みでタッセルを付ければおしゃれ度も倍増です！（図3）



綿はお好みに入れても入れなくても良いのですが、立体感がある方がかわいいです！

こんなに暑いと外出もしたくないですね。おうちにこもってぜひ作ってみてください。

お子さんの新学期に持たせてあげてはいかがでしょう？
以上3R clubでした～。



なく、社員が元気になったというような定性的なこと含まれます。
石井..そもそもCSVや社会起業家というのもおかしな言葉で、社会的価値のない商品なんて売れるわけないんだから、CSVじゃないビジネスなんて存在しないし、社会起業家以外の起業家だって存在しないと思うんですけどね。松下電器の二股ソケットだって社会課題の解決でしょ？
江森..まったくその通りだと思えますね。本来社会課題の解決に株式会社かNPOのような組織形態の違いは関係ないですね。政策上の都合で行政が区別していることの影響が大きいと思いますが、それによって社会課題が企業にとって他人事になってしまっているところもあると思いますね。

最後にまとめとして、石井造園はこれらどんなCSRを目指していますか。
石井..Bコーポレーションという国際認証をとっていますが、「B」は「Benefit」の頭文字です。石井造園がここにあることへの社会全体にとっての利益、価値というものを、もっともっと高めていきたいと思っています。またCSRのおかげで今日もこうやって取材してもらったり、世間からチャホヤしてもらっているの、その分しっかりと財務的な利益も出していかなければいけませんし、事業としても拡大方向に向かわなければいけないと思っていますし、何より経営理念でもある、石井造園に関わった人たちが幸せになる会社になっていかなければいけないと思っています。

※インセンティブ発注

横浜型地域貢献企業認定制度の認定企業メリツトのひとつとして、横浜市の公共工事及び委託（いずれも一部の種目に限る）の入札の際に、特定の条件を満たした企業だけが入札に参加できるインセンティブ発注の対象となる。

※SR調達（社会的責任調達）

持続可能な社会の実現の観点から、従来のコスト・品質・納期（QCD）のみならず、環境・人権など、社会的責任（SR）に配慮した調達の必要性が重視されるようになってきている。企業による社会的調達をCSR調達と呼ぶのに対し、行政やNPOなども含めたすべての経済主体の社会的責任調達を「SR調達」と呼んでいる。

セブンイレブン横浜大口仲町店

大口の魅力を紹介する「大口自慢」。今回ご紹介するのは、弊社から一番近いセブン。セブンイレブン横浜大口仲町店です。戦前から続く青木屋酒店が、時代のニーズに合わせてコンビニとなったのが40数年前。現オーナーの青木雅豊さんは、お父様の急逝を機に、新卒で入社した会社を3日で退職し、家業を継ぐ決意をされたそうです。酒屋さんの歴史があるからか、「セブンとは呼ばず『青木さんのところ』って言ってくれる人が多いんですよ」と穏やかな口調でお話してくれました。



大口仲町のことを聞いてみると「いい意味で世代交代が来ている町。お年寄りを大事にしつつ若い世代もどんどん入ってきているし、中学校や高校も近くにあるからとても活気がある。今年の夏はお祭りがあるからね、みんな盛り上げていかなくちゃ！お祭り、もちろん来たいよ！」と地域愛あふれるお答え。それもそのはず、青木さんは地域の防災部長、避難場所の地域防災拠点の副委員長を務めている地域のリーダー的存在。弊社の声掛けで定期的に開催している災害時助け合いネットワークのミーティングにも忙しい仕事の合間をぬって毎回出席してくださり、なくてはならない存在になっています。



従業員の方にオーナーのことを聞いてみると「とにかく優しい」「オーナーも奥さんもいい人だから働きやすい」など、皆さんに慕われている様子。昨年11月にリニューアルオープンして店内が広くなり、品数もかなり増えたそうです。地域限定商品も積極的に入荷しているので、大口でコンビニをお探しのなら、ぜひ当店へ！

大口自慢

セブンイレブン横浜大口仲町店

横浜市神奈川区大口仲町10-2

電話番号：045(421)0770

営業時間：24時間営業

定休日：なし

Kyoshin TODAY

WFPのチャリティーイベントに参加

5月13日(日)、認定NPO法人国連WFP協会様主催のチャリティーイベント「WFPウォーク・ザ・ワールド」に初めて参加しました。横浜と大阪会場合わせて参加者約6千人、参加費からの募金は約560万円にもなるビッグイベントです。途上国の子どもたちの飢餓をなくすため弊社も微力ながら協賛させていただき、夏の気配を感じながら無事10km完歩しました。



● WFPウォーク・ザ・ワールド
<http://www.walktheworld.jp/index.html>

6月のありがとつのは「避難場所を知ろう！ついでに街をきれいにしよう！」

もし、働いている時間に災害が起こったら、みなさんはすぐに指定避難場所に行けますか？

いっつき避難場所、地域防災拠点、広域避難場所が自治体で指定されていますが、弊社でも聞いたことはあるけど場所は分からない、なんて声がちらほら。そこで、梅雨の晴れ間が広がる土曜出勤日の6月2日、歩いて



近隣の避難場所を回り、ただ歩くだけじゃもったいない！とついでにゴミ拾いも行いました。避難場所を知ることができ、いざという時は自主避難ができるという安心感を得られただけでなく、朝から地域の方と挨拶を交わしたり、街をきれいにしたり、清々しい一日の始まりとなりました。

ブログもチェック！ <https://kyoshin-blog.com/>

今年も、母校にCAPを贈りました

今年も「母校にCAPを贈ろうキャンペーン」で、大口台小学校の3年生に子どもへの暴力防止プログラムCAPをプレゼントしました。今年はメディア取材が入り、また保護者向けワークショップは飯野PTA会長のご尽力で近隣小中学校PTAとの合同開催となりました。ますますCAPの輪が広がり、地域の子どもの安全が守られるよう、これからも小さな積み重ねのお手伝いを続けてまいります。



2017年度 CO₂・産廃排出量

2017.4.1～2018.3.31

項目	排出量	前年比
CO ₂	21.4t	96%
廃油	0.39t	99%
廃アルカリ	0.04t	50%
廃プラ	0.11t	175%
金属くず	0t	-
事業ごみ	720ℓ	94%

※金属くずは今年度からリサイクルできるようにするため、産業廃棄物としては排出されませんでした。

《報告》

弊社代表江森克治が本年5月より左記に就任いたしました。

- ・全日本印刷工業組合連合会 常務理事
- ・関東甲信越静地区印刷協議会 会長
- ・神奈川県印刷工業組合 理事長

JO(ジェイ・オー)2018年7月号(第24号)

発行者：株式会社協進印刷

横浜市神奈川区大口仲町10-8番地

TEL：045(431)6611

FAX：0450(3730)6273

URL：<http://www.kyoshin-print.co.jp>

